飛行機に乗って、島から島へ出勤中

奄美群島で活躍中の島のお医者さんに、4回にわたってお話を伺います。

連載コラム　島のお医者さん　最終回
～心のメッセージ～

こんにちは、奄美群島で『島のお医者さん』として働いてますDr.ヒラッシーこと平島修と申します。島のお医者さんの、楽しさ、苦労、奮闘、そして感動を身近に感じていただけるメッセージをお届けしたいと思います。

みなさんはたった今、ふるさとへ、旅行へ、お仕事へ、いろんな想いで搭乗されているかと思います。では、旅行先・出張先で病気になったらどうするのか、考えたことはありますか？普段でも病気のことを考えることはあまりないかもしれませんが、健康診断でひっかかるような生活習慣病を除けば、ほとんどの病気は急に現れます。小さな島で病気になったら、都会と同じように診てもらえるか不安になるかもしれません。私は奄美大島へ旅行中に病気に罹って受診される方を時々診察します。私自身、病院受診が嫌いで、知らない土地の病院を初めて受診する煩わしさ、緊張・不安はよくわかります。ですので診察の際には、最初に握手などでなるべく緊張をとってもらえるように心がけています。

医師は病気を診断し、治療することが一番の仕事ですが、診断に最も重要なのは患者さんの言葉から得られる情報です。この情報を「病歴（びょうれき）」と言います。同じ症状でも、年齢や性別という情報だけでも考える診断は変わります。病歴のなかでも最も診断に影響するのが、患者さんの過去の病気と持病でどのような薬を飲んでいるのかという情報です。飛行機の中で呼ばれる医師もまず気にするのは、やはり普段のご病気とお薬なのです。みなさんもご自分の病気とお薬の情報は自分で責任を持って把握しておくことを是非オススメします。

では、離島で急に重病になったらどうするのでしょうか？奄美大島は全国の離島の中でも３番目に大きな島で、ほとんどの病気は島内で治療可能です。しかし、治療が完結できない病気もあり、最終手段として九州本土や沖縄県に患者搬送（島外搬送）を検討します。島外搬送にもいくつか手段があるのをご存じですか？代表的な移動方法として、ヘリコプター（ドクターヘリ、自衛隊・防災ヘリ）、船（救急艇）、そして皆さんが今乗ってらっしゃる飛行機があります。搬送する患者さんの状態、時間帯、搬送の目的によって搬送の手段を使い分けます。今年４月に就航したATR42-600型機は、本格的な医療用航空ストレッチャーが導入されており、横になったままで搬送可能なだけでなく、カーテンも装備され、患者さんのプライバシーも考慮されました。緊急度合や天候等に応じて、ドクターヘリ、ATR、救急艇を利用するといった使い分けが可能になったのです。

私は離島医療でたくさんの生と死に向き合う中で、患者さんと医療者が手を取り合って医療を行うことの大切さを教えていただきました。『手あての医療』が日本中にもっともっと広がることを願っています。

島のお医者さん　平島　修

（徳洲会奄美ブロック総合診療研修センター医師）

11年前に初めて奄美の医療・人の温かさに触れ、奄美群島での医療に取り組む決意をする。奄美大島・加計呂麻島・喜界島で診療をしつつ、全国の医学生・医師に「手あて」の重要性を伝える活動を行っている。

～表紙クイズの答え～

正解は…鹿児島ユナイテッドFCのホームゲーム！
（鹿児島県立鴨池陸上競技場）

JACは地元のプロサッカーチーム“鹿児島ユナイテッドFC”と協力し、「離島の子どもたちの夢を応援します」をスローガンに様々な取り組みを行っています。写真は、奄美大島代表の小学生チームを鹿児島での試合へご招待した時のもの。

また、各離島への出前サッカースクールや指導者講習会の開催など、離島の子どもたちの夢が広がる環境作りをサポートしていきます。将来、この中からJリーガーが誕生してくれることがJACの夢です！

~空港で働く新しい仲間をご紹介します！~

今日は、お客さまがご搭乗の際にご利用いただく特殊器材「ボーディングスロープ」をご紹介します。

離島路線に多く運航するターボプロップ機材は6段から7段ほどのタラップと呼ばれる階段が飛行機に備え付けられています。これにより、どこの空港でも飛行機を乗り降りすることが可能になります。

JACが運航する路線では小さなお子さま連れの方や、ご高齢の方、あるいは車いすご利用のお客さまが多数いらっしゃいます。どなたでもより安心、かつ快適に飛行機の乗り降りが出来るように緩やかな傾斜のスロープを用いた特殊器材をATR型機の就航に合わせて導入することに致しました。

ATR型機が就航する空港に配備されており、空港により3段折り返しのタイプと1段一直線のタイプの2種類がありますので、飛行機にご搭乗いただく際にぜひ探してみてくださいね！

JACはこれからも全てのお客さまが安心して快適に飛行機をご利用頂けるように工夫して参ります。

編集後記

「島のお医者さん」コラムがこのたび最終回を迎える。「温かみのある医療」と共存する「医療の厳しい現場」。離島医療で活躍する平島先生から紡がれる言葉の数々は、不思議と私たちを優しい気持ちに包み込んでくれる。相手を想う優しい気持ちは、離島医療の現場だけではなく、私たちJAC社員も大切にしていきたい。今日も島のお医者さんの胸には、手を取り合う医療が浮かぶ。

（ゆいタイム編集員 JAC整備管理部 森原）

どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

Vol.4

JAC NOW
～ゆいタイム～

クイズ:　奄美の小学生たち。
大勢でどこに行っていたのかな？

（こたえは裏面へ。）

お手にとってくださり、ありがとうございます。

JACの今をお届けしようと、社員手作りの機内情報誌を2016年秋より発行しており、今回、第4回目の発行となりました。お客さまとつながるゆい“結い”の時間を、そして、地域航空として各地域を“結ぶ”情報をお届けしたいという想いを込め、ゆいタイムと名付けております。ふたつとない今日のこの空の上でのお客さまとの出逢い。ゆい“唯”タイムを、『JACNOW～ゆいタイム～』を通じて、優しく心つながる時間として、お過ごしいただけましたら幸いです。

ご意見、ご感想、お気づきの点などございましたら、どうぞお気軽に、客室乗務員までお寄せください。

また、バックナンバー（vol.1～3）をご覧になりたい方も、どうぞお気軽に客室乗務員までお声掛けください。

JAC 日本エアコミューター

みなさまへ

本日も日本エアコミューター(JAC)にご搭乗くださいまして誠にありがとうございます。

JALグループは新たに2017-20年度中期計画をスタートしました。その中でJACは「地域に愛され信頼されるJAC」を目指してまいります。この中期期間は、我々のホームグラウンドである奄美群島とその周辺エリアが強い追い風を受けて、地域がさらに成長・発展する千載一遇のチャンスでもあります。奄美群島国立公園化と世界自然遺産登録、さらに大河ドラマ「西郷どん」放映や鹿児島国体開催と目白押しです。このチャンスに、JACはJALグループと一体となり以下の取り組みを推進します。

- 8月より段階的に奄美線にJALジェット機材を投入し運航
- 新型機材のATRを順次投入し、SAAB/Q400機材に置き換え、快適性を向上
- 来年度より「奄美群島アイランドホッピングルート（※）」を開設し、奄美群島のみなさまの生活需要のニーズに加え、“奄美群島周遊”や“奄美群島～那覇の流動創出”による新たなお客さまの流れを呼び、需要を喚起（※奄美～徳之島～沖永良部～那覇）

地域のみなさまと一体となり、JACは地域の翼として、地域創生に一層貢献していきたいと考えておりますので、これからもJAC、そしてJALグループをよろしくお願いいたします。

日本エアコミューター株式会社
代表取締役社長　加藤 洋樹

黒砂糖
（機内でお配りしています）

ご搭乗くださりありがとうございます。就航地域リエゾン室で喜界島を担当しております東です。今回は「喜界島の黒糖(黒砂糖)」についてご紹介します。

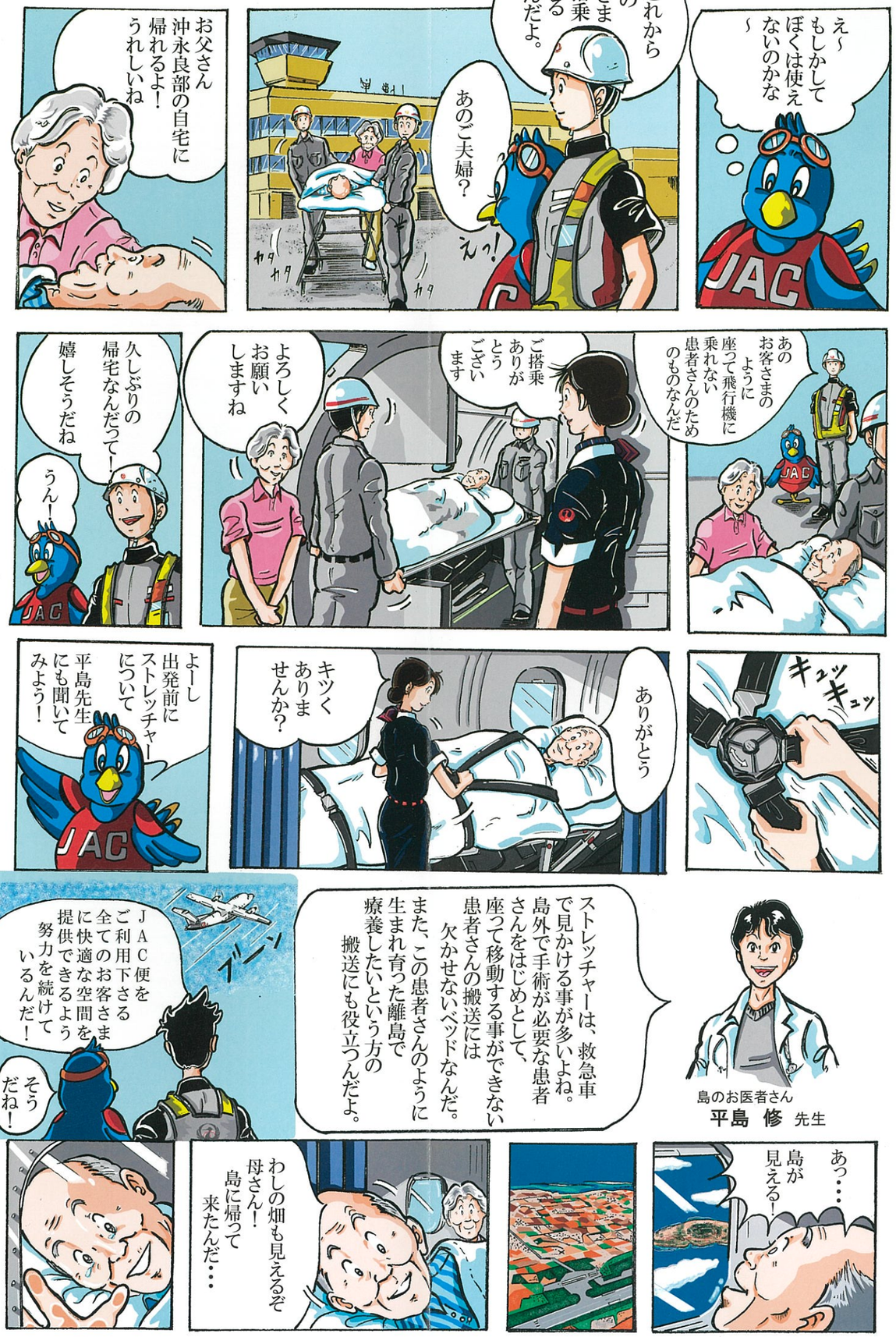
喜界島は奄美大島からJAC便でわずか20分とすぐお隣の、エメラルドグリーンの海に囲まれた島です。海中のサンゴ礁が隆起してできた島であり、現在でも年間約2mmずつと世界的に見ても驚異的なペースで隆起を続けています。そのためミネラル豊富な土壌で、温暖な気候と、平坦な土地による風通し・水はけの良さも加わり、黒糖の原料となるサトウキビの生育に適していると言われています。さらに喜界町誌によると、すでに江戸時代の1850年頃には奄美群島の中で一番という意味で「道之島(みちのしま)一番の砂糖」と言われていたそうです。4月1日よりJAC便の機内でお配りしている「黒砂糖」は、この喜界島の黒糖を使用しております。島民のみなさまが思いを込めて、サトウキビを丹念に育て、丹精込めて製造・加工される喜界島の黒糖。苦みが少なく、まろやかな甘みを、ぜひ機内でご堪能ください。

就航地域リエゾン室
兼　喜界島空港所 東　高司

ストレッチャーのご利用には、事前のご予約が必要です。
詳しくはJALプライオリティ・ゲストサポートのホームページ(https://www.jal.co.jp/jalpri) をご覧ください。

文・構成 JAC整備、絵 JAC整備 草野

※ルリー：JACのイメージキャラクター

JAC 空の上の航空教室

NO.4 夢のストレッチャー